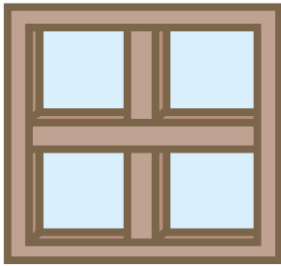


Y・A BOOKS

～ “おうち時間”に読もう！～

号外 1

(2021.2)



今回は“おうち時間”に読んでほしい

おすすめの本を紹介するよ！



◆ 鳥はなぜ鳴く？ ホーホケキョの科学

松田道生／著 中村 文／絵 理論社 2019.5 テコ 488.99-マツ 1111647236

「ホーホケキョ」と鳴くウグイスの雄は、朝寝坊で一日2,000回以上もさえずっています。それは縄張りの主張や求婚のため。またそのさえずりには方言があって、地方によって鳴き方が違うといえます。古くは「万葉集」に多く詠まれていて、「枕草子」では嫌われていたりもします。一方『元旦に便所でウグイスの鳴き声を聞くと死ぬ』と伝わる等、社会との繋がりも興味深い。

四コマ漫画つきで他の鳥と比較しながらの解説がわかりやすく、楽しみながら読める科学の本です！



◆ 科学の扉をノックする

小川洋子／著 集英社 2008.4 テコ 404-オカ 1109434964

広大な宇宙の話あり、鉱物、粘菌、遺伝子やスポーツ科学の話あり、中には初めて目にする『遺体科学』があります。長年謎だったパンダの余分な指の意味を死体の解剖から解明した、遠藤秀紀先生の専門分野です。

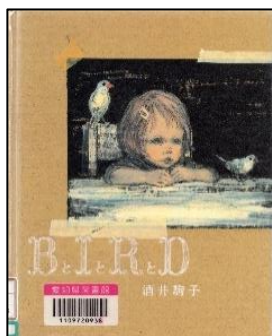
興味深いのは、動物の遺体の肉を骨から剥がすために沸騰した大鍋でひたすら煮る過程。しかし鍋に入らないゾウなどは、土に埋めて骨にします。「土地を貸してくれる人を探すんです」。ゾウの死体から窒素が提供され、その土の上に育つほうれん草などが、青々と育っていることで納得してもらおうそうです。科学大好きな作者が、それぞれの分野のエキスパートに丁寧にわかりやすい言葉で迫った対談集！

◆ 正しく怖がる感染症

岡田晴恵／著 筑摩書房 2017.3 493.8-オカ 1111347392

グローバル化した現代社会—私たちは世界中を旅して、様々な物や人との出会いを楽しむことが出来るようになりました。でも、喜ばしい反面、世界が近くなったことで困った問題も起きています。感染症の世界的流行です。

感染症とは一体何なのか。どうしたら予防出来るのか。日本では普段意識されていないけど、実は身近に潜んでいる感染症を知り、みんなで正しく怖がりましょう。



◆ BとIとRとD

酒井駒子／[作] 白泉社 2009.6 テコ 726.6-サカ 1109720938

ちいさな女の子の視線の先にある景色が描かれた、8つの短編集です。

子どもの純粋な心の動きを丁寧にとらえていて、自分にもこんな気持ちになる場面があったかもしれない、と忘れていた何かを思い出させてくれるかもしれません。特に酒井駒子さんの描く美しく繊細な作風の絵は、可愛らしくもどこか儚げで、そっと寄り添ってくれる優しさがあります。

心静かにじっくりと堪能してみたいかがでしょうか。

◆ ピクトさんの本

内海慶一／著 ビー・エヌ・エヌ新社 2007.4 テコ 727-ウツ 1109258544

非常口のマークを代表とした、表したい概念を単純な図として表現するピクトグラム。

この本ではそんなピクトグラムで表された「ピクトさん」の仕事内容を10種類に分けて紹介。

時に転んだり、時にぶつかったり、時には命に関わるような危険な役目を担う事も。

それでもピクトさんは人々に注意喚起をするために身体を張っているのです。

ピクトさんの勇敢で気の毒な、でも時々くすっと笑ってしまったり敢えて悪い事もしてしまう仕事ぶりを、少し覗いてみませんか。



◆ あるかしら書店

ヨシタケシンスケ／著 ポプラ社 2017.6 テコ 726.6-ヨシ 1111382785

「本にまつわる本」の専門店、「あるかしら書店」には不思議でユニークな本がたくさん！ 毎回さまざまな理由で本を探しに来るお客さんに、店のおじさんが快くおすすめを紹介してくれます。あったらいいな！と思う本から便利な道具まで、本好きの人なら楽しめること間違いなし。クスツと笑える要素も満載で、ヨシタケシンスケさんの発想と共に想像の世界が広がっていくワクワク感を味わえます。さあ、もくじを開いて……。気になる本は、あるかしら？

読んでみてね！

